

## 2. “見てすぐ判る”漢字の偉力

### 漢字は一目で意味が判る

名神高速道路が出来た時、道路標示に使う最も良い文字を選ぶために実験したところ、ローマ字で書いた場合、判読に数秒かかり、かな

で書かれたものは数分の一秒、そして、漢字の場合は、数十分の一秒で読める、ということが判りました。

国語に「ハナ」という言葉があります。「突き出たところ」というような意味の言葉ですが、草本の花も、顔の鼻も、同じく「ハナ」です。ところで、鼻から出るものを「洩」と書きます。

「ハナ」と書いたのでは、それが何を指すのかははっきりとしませんが、これを花・鼻・洩と書き分けると、一目ですぐに意味が判ります。それに、「花」という字には、なんとなく美しい雰囲気がありますが、「洩」には、汚らしい雰囲気があります。見るからに胸が悪くなるような字で、ズルズルという音さえ聞えてきそうな気がします。

このように、漢字というものは、それぞれに鮮やかな印象を秘めていて、一目見ただけで正しく早く、その文字が意味するもの呼び起

してくれます。思想の伝達という機能を果す上で、漢字ほど優れた働きを持った文字は、他にありません。

言葉は、録音しておかなければ口から出た途端に消えてしまい、しかも、ラジオやテレビのような手段によらない限り、その伝わる範囲もごく近くに限られます。ところが、文字になりますと、時間的にも空間

### コラム 同音異義語 みる

「見る」「看る」「視る」「観る」

【見】 目と人との合字。“人における目の働き”。目を開いていれば自然と物が見えてくる、つまり“見える”という意味を表すために使える唯一の漢字。「儿」は人が坐っている姿を表したもので、“人”と同じ。

【看】 目の上に手をかざした形。“見ようと思って見る”こと。よって、「看える」という使い方はない。

【視】 神と見との合字。神を祭祀する時の見方を表した字で“汪意して見る”こと。

【観】 “熱心に見る”“心をこめて見る”という意味。「観察」、「観光」「ながめ」という意味も。「外観」、「壮観」。

的にも、その効果がずっと大きくなります。

文字というものは、そういう機能を待ち、言葉の短所を補うものとして生れたものですが、もう一つ注意すべきことは、文字が、言葉では精密に区別し、表現できない点まで表現できる、ということです。

先の例の「花」「鼻」「漢」もそうですが、「見る」「看る」「視る」「観る」という表記もそうです。これらは、英語の see, look, inspect, observe に当る意味を表しています。つまり、「見る」は「何気なくみる」ことであり、「看る」とあれば、「みようとしてみる」ことであり、「視る」とあれば、手落ちはないかと「注意してみる」こと、そして「観る」とあれば、「細かい点にまで心を配ってみる」ことであるのが判ります。

ですから、「川をみる」という表記では、どういう態度で川をみるのか判りませんが、「川を見る」「川を看る」「川を視る」「川を観る」と書けば、その川をどのようにみているのかがはっきりと判ります。

このように、言葉では不可能な点まで表現できるところに、漢字の、文字としての大きな特長があるのです。これが漢語の表記となりますと、一層その特長がはっきりしてきます。

### 漢字の学習は頭脳を明晰にする

私は、六年生の教科書を見ていて、「こう水」という表記を目にした時、一瞬とまど

いました。それは「洪水」のことだったのですが、私はその「こう水」を一瞬、「こうすい」と読んだのです。「こうすい」では、「香水」か「鉱水」になってしまいます。つまり、小学校では、これらの漢字を教えないで、「こう水」という表記で教えているのですから、実際の「洪水」「香水」「硬水」「鉱水」という言葉を理解させることは出来ないのではないかと思います。

「こう水」という表記がこれこれの四つの言葉を表すということは、説明することは出来ませんが、それでは子供にはとても理解できないでしょう。

ところが、この「こう」を洪・香・硬・鉱という漢字にすると、それぞれ明瞭な意味を持っていて、決して紛れることありません。漢字で学ぶことは、かなで学ぶよりも、ずっと易しく能率的なのです。ですから、言葉を漢字で学んだ子供たちは、「かなばかりの本は読みにくくて意味が判りにくい」と言っています。

つまり、漢字を学ぶことは、概念を明確にすることであり、物の考え

方をはっきりさせることになるのです。だから、「漢字の学習は頭脳を明晰にする」と言うことができます。

### 漢字は書けなくてもよい

以前、朝日新聞は「石井方式を考える」という社説を掲げ、「石井方式はよく“漢字を教える教育”のように言われ

ているが、そうではない。“漢字で教える教育”なのである」と解説しましたが、今でもなかなかこのように理解してくれる人は多くありません。

例え漢字が書けるようにならなくても、漢字で学習することにより、言葉の持つ意味が正しく理解できれば、十分とは言えないまでも、それで結構だ、と私は考えています。ですから、漢字を学ぶことを目的とする漢字教育ではないのです。

もちろん、出来るだけ漢字が書けるのに越したことはないし、実際に漢字で学習していれば、いつとはなしに、漢字を覚えてしまうものです。

平安朝の昔から、かなは女手、漢字は男手と呼ばれて、漢字は難しいものだと考えられてきました。たしかに字数が多いばかりでなく、

字形が複雑なので、いかにも難しそうに見えます。

しかし、漢字は、文字であると同時に、<sup>ワード</sup>語でもあるのです。例えば山・川・花・月などの文字は、英語の mountain, river, flower, moon という語に当たっています。英語の場合、アルファベットだけ覚えても文章を読むことは出来ません。一語一語、何千という語を学ばない限り、書物を読むことは出来ないのです。

とすれば、漢字は字数が多く、字形が複雑なのは当然のことなのです。「整」という一字など、英語に直せば、「to put (things) in order」という言葉になります。つまり、「束」が「things」で、「女」が「put」の意味に当り、「正」が「order」の意味を表しているのです。これだけの意味を、ただ一字で表しているのですから、その字形が複雑になるのは当然です。

整という字を構造的に言うならば、木に輪をかけて「束」をこしらえ、両端がきちんと揃うように、棒を手にして叩く(女は𠂔で、手に棒を持つ意味、牧、教、攻の女は皆この意味)ことで「正」しくなり、「整」うのです。